

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 1 月 6 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/6 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	18.2 °C	106.8 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	25.8 °C	6.13 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	25.3 °C	0.22 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.09 vol%

*1：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H26/1/6 1月分の原子炉の冷却に必要な注水量について、1号機 1.8m³/h、2号機 2.4m³/h、3号機 2.3m³/hと定め、運用を開始。

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

- ・H25/12/27 7:48 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ [12/27 7:50 時点]: 気温 5.1°C、湿度 93.1%)
※ プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H25/12/30 7:45 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ(12/30 7:50 時点): 気温 6.8 °C、湿度 39.8%)
※ プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H26/1/2 7:44 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ [1/2 7:40 時点]: 気温 3.9°C、湿度 91.2%)
※ プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H26/1/3 7:42 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ(1/3 7:40 時点): 気温 1.4 °C、湿度 67.7%)
※ プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (1/6 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	12.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	10.8 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	9.0 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	16.9 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

・H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。なお、同作業は平成 26 年末頃まで行う予定。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	12/31 9:34～ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	12/17 16:00～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (1/6 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 当面は、3系列のうち2系列による運転を実施することで2系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3系列の同時運転を実施予定。

- ・ B系：平成26年1月下旬頃(予定)に腐食対策有効性確認のため、処理運転を停止予定。
- ・ H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・ H26/1/6 11:50 頃 第二セシウム吸着装置(サリー) B系セシウム吸着塔下部の配管付け根部分に、微少のにじみをパトロール中の福島第一原子力規制事務所の原子力保安検査官が発見。現在、にじみの状況および原因等を調査中。

< 5. その他 >

- ・ H25/12/29 0:00 頃 G5タンクエリアにおいて、新設したタンクの漏えい試験に使用したろ過水を、同エリアの別の新設タンクに移送していたところ、仮設移送ポンプと移送用ホースの接続部より、1秒に3滴程度のろ過水が漏えいしていることを、タンクエリアパトロール中の協力企業作業員が発見。そのため、同日0:30に仮設移送ポンプを停止し、ろ過水の漏えいが停止したことを確認。漏えいしたろ過水の表面線量を測定したところ、バックグラウンドと同等であることを確認。その後、現場の状況を確認したところ、漏えい範囲は約1m×約1mであることを確認。また、漏えい量はろ過水の移送開始から仮設移送ポンプの停止までを漏えい時間と仮定し、4リットル程度と推定。ろ過水が漏えいした原因については、仮設移送ポンプと移送用ホース接続部の止水性が不足したことにより、漏えいに至ったものと推定。その後、当該接続部の止水処理を行い、ろ過水の移送を再開。

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・ H25/12/10 10:10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績(H25/12/27～H26/1/5)>

- ・ 高線量当量率箇所(β+γ線(70μm線量当量率))は確認されず。
- ・ 堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・ 目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・ 汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・ H25/12/29採取のH4エリア周辺地下水E-1のトリチウム値が、H25/12/28の34,000 Bq/Lから330,000 Bq/Lに上昇。また、H25/12/30採取のH4エリア周辺地下水E-1のトリチウム値が、H25/12/29の330,000 Bq/Lから420,000 Bq/Lに上昇しているが、当該地点においては、12月上旬に数日間、450,000 Bq/L前後のトリチウムが検出されており、今後も、監視を継続していく。
- ・ その他分析結果については前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・ 前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・ 1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は1/6 0:00時点で約6,989m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・ H25/12/26に採取した地下水観測孔No.1-11について、全ベータの測定値が前回値と比較して高い値を検出されたことから、H25/12/27にあらためて水を採取し測定した結果、250Bq/Lであり、前回(12/26)と比較して低下。また、H25/12/30に採取した地下水観測孔No.1-11について、全ベータの測定値がさらに下がり、ほぼ上昇前レベルの35 Bq/Lとなった。

[地下水観測孔 No. 1-11 の測定結果]

H25/12/30 採取分：

- ・セシウム 134 : 0.56 Bq/L
- ・セシウム 137 : 1.3 Bq/L
- ・全ベータ : 35 Bq/L

H25/12/27 採取分

- ・セシウム 134 : 検出限界値未満 (検出限界値 : 0.41 Bq/L)
- ・セシウム 137 : 1.3 Bq/L
- ・全ベータ : 250 Bq/L

H25/12/26 採取分

- ・セシウム 134 : 0.72 Bq/L
- ・セシウム 137 : 1.4 Bq/L
- ・全ベータ : 2,300 Bq/L

H25/12/23 採取分

- ・セシウム 134 : 0.45 Bq/L
- ・セシウム 137 : 0.93 Bq/L
- ・全ベータ : 検出限界値未満 (検出限界値 : 24 Bq/L)

地下水観測孔 No. 1-11 は、1, 2号機間の地盤改良箇所の内側であり、当該エリア内については全ベータが高いレベルで検出されている地点もあることから、地下水の動きなどにより一時的に上昇した可能性が考えられる。その他は、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。今後も監視を継続していく。

- ・その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<移送関係>

- ・2, 3号機東側に設置したウェルポイント (バキュームによる強制的な排水設備) からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No. 0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。

【地下水貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下水貯水槽 No. 1 の汚染範囲調査開始。
- ・H25/10/23～ 地下水貯水槽 No. 6 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/15～ 地下水貯水槽 No. 5 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/19～ 地下水貯水槽 No. 1 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/28～ 地下水貯水槽 No. 3 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/12/7～ 地下水貯水槽 No. 2 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/12/16～ 地下水貯水槽 No. 7 において浮き上がり対策を実施中。

<地下水貯水槽サンプリング実績>

- ・H25/12/26 に採取した地下水貯水槽観測孔 (No. 1～3) A1 について、全ベータの測定値が前回値と比較して高い値を検出したことから、H25/12/27 にあらためて当該観測孔内の水を採取し測定した結果、検出限界値未満 (検出限界値 : 2.8×10^{-2} Bq/cm³)。

[地下水貯水槽観測孔 (No. 1～3) A1 の測定結果]

H25/12/27 採取分

- ・全ベータ : 検出限界値未満 (検出限界値 : 2.8×10^{-2} Bq/cm³)
- ・塩素濃度 : 9 ppm

H25/12/26 採取分

- ・全ベータ : 1.3 Bq/cm³
- ・塩素濃度 : 9 ppm

H25/12/25 採取分

- ・全ベータ : 検出限界値未満 (検出限界値 : 2.8×10^{-2} Bq/cm³)
- ・塩素濃度 : 7 ppm

地下水貯水槽観測孔 (No. 1～3) A1 の H25/12/26 採取分の全ベータが高い値を示した原因は、以下の理由より、観測孔内の水を採取してから分析するまでの過程において、何らかの放射性物質が混入したものと考えている。

- ・採取開始からこれまでの間、ほとんどが検出限界値未満で推移していること。

- ・当該箇所近傍において影響を与えるような作業等を行っていないかったこと。

なお、地下貯水槽観測孔 (No. 1～3) A1 以外の 21 箇所については、塩素および全ベータともに前回と比較して有意な変動はなかった。

- ・その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上